



東京大学木曾観測所における パブリックアウトリーチ活動

三戸洋之、松永典之、酒向重行、小林尚人、土居守、宮田隆志、
青木勉、征矢野隆夫、樽沢賢一、田中由美子、吉井譲

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター

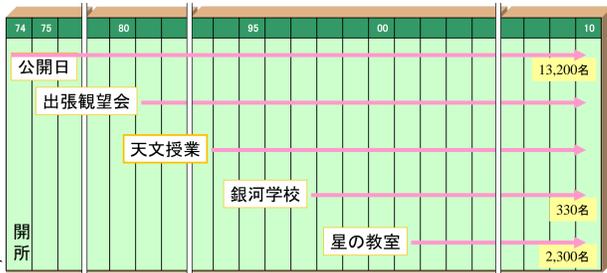
1. 木曾観測所とアウトリーチ活動

東京大学木曾観測所は1974年の開所以来、国内外の研究者に共同利用の環境を提供してきた。また、パブリックアウトリーチ(PO)活動にも力を入れており、そのひとつの公開日は開所当時から続けられている。

2000年前後から高校生を対象として、**銀河学校**、**星の教室**といった活動がはじめられた。これらの活動はそれを体験した生徒や、生徒が所属する高校からも評価が高く、今後も継続してほしいという要望が来るほどである。

我々はPO活動が、中小望遠鏡を持つ施設において、次世代の科学、天文学の全体的な発展に貢献する方法のひとつであると考え、活動をすすめている。

図2. 木曾観測所パブリックアウトリーチ活動のあゆみ



人数は2009年度末までの参加人数

2. 活動の体制

図3は現在観測所で行われている5つのPO活動について、対象としている地域と年齢層を表したものである。このように、対象とする地域は観測所のある木曾地域から全国まで、年齢層は小学生から一般までと広範囲にわたっている。

図4はそれぞれの活動がどのような予算と人たちの協力によって運営されているかを示したものである。**星の教室**は、JST、文部科学省の施策であるSSH、SPPの予算を使い、NPOサイエンスステーション(SS)やその他の大学生、大学院生の協力のもと行われている。**銀河学校**は、子どもゆめ基金とSSの予算を使って行われている。また、公開日などでは、このほかに地域団体『木曾星の会』からも協力いただいている。

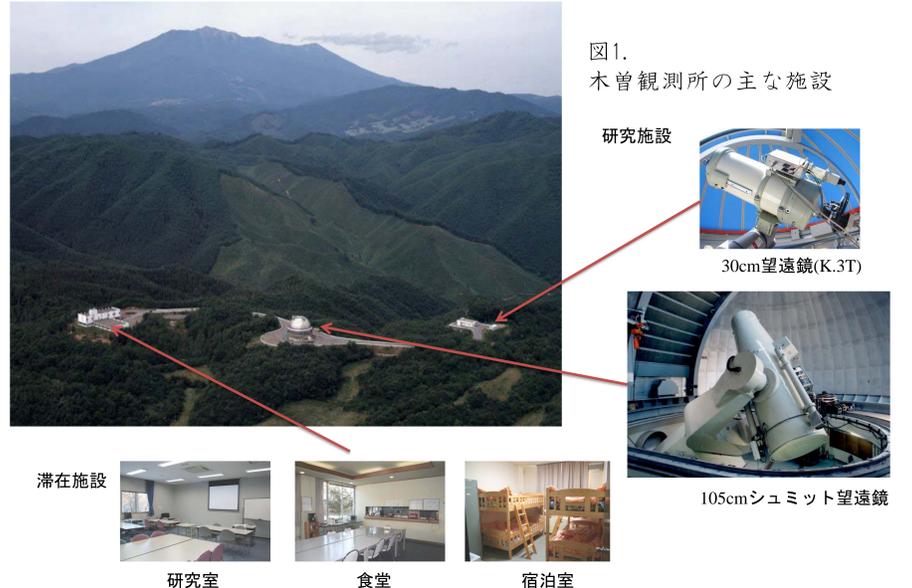


図1. 木曾観測所の主な施設

図3. 主なパブリックアウトリーチ活動とその対象

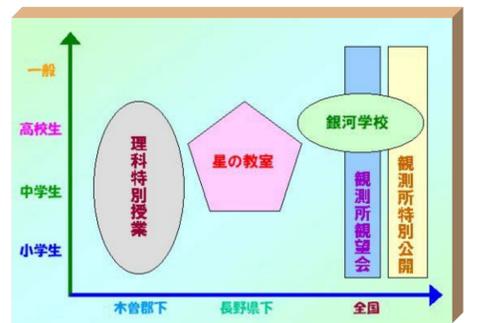
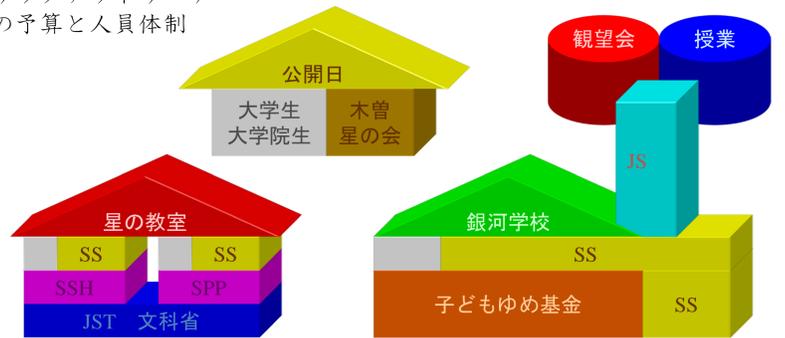


図4. パブリックアウトリーチ活動の予算と人員体制



木曾観測所パブリックアウトリーチ

SS: NPOサイエンスステーション
SSH: スーパーサイエンスハイスクール
SPP: サイエンスパートナーシッププログラム
JST: 科学技術振興機構

JS: 日本天文学会ジュニアセッション
大学生、大学院生のおもな学校
東京大、日本女子大、三重大、学芸大、文教大、名古屋大、東北大、奈良女子大、中京大など

3. おもな活動の内容

銀河学校

毎年3月末に、全国の高校生を対象に行っている。3泊4日の日程で、毎回30名ほどが参加する。1998年からこれまで、のべ330名の参加者があり、卒業生は天文学のみならず、様々な分野で活躍している。



星の教室

生徒	高校生	中学生
地域	長野県および近県	木曾郡内
日程	1泊2日	夕方からの数時間
人数	20~40名	20~40名
回数/年	6~9回(10校程度)	4~6回(2006年度以降中断)
テーマ	宇宙年齢、光の性質	惑星などの観望

2002年の開始以来、のべ2300名の参加者があった。合宿しながら、科学的な議論を進めるスタイルは、長野県内の教育界からも注目されており、最近では高校が主体となって行う方向へと変わりつつある。

見学、データ解析、研究、発表のようす



公開日

- ・人数: 100~400名程度/回
- ・日程: 毎年8月初、1~2日間
- ・内容: 施設見学、講演会、研究紹介、パネル展示、観望会など



観測、データ解析、研究、発表のようす



日本天文学会ジュニアセッションでの発表